ヒガンバナがつなぐ絆

町の有志らが5月13日（金）、富士見湖パーク内の白衣観音堂の参道周辺に鹿児島県さつま町の「むつみ会」から届いたヒガンバナの球根を植えました。

町民の瀬戸ひとみさんがむつみ会と交流したことを機に、2018年からヒガンバナの植栽を行っています。今年は200kg以上の球根が届いたそうです。

植栽には地域の住民約40人が参加。スコップを手に参道周辺に穴を掘り、数個ずつ球根を植え付けていました。

瀬戸さんは「町の新たな名所になるよう、観音堂周辺を『ヒガンバナの郷（さと）』にしていきたい」と話していました。

△さつま町から届いたヒガンバナの球根を植える参加者

あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

地域の伝統を後世に継承

5月14日（土）、山道文化センターで山道町内会による登山囃子講習会が行われました。

同会ではこれまで旧胡桃舘小学校を中心に登山囃子の継承を行ってきましたが、同校の統廃合に伴い継承活動が途切れてしまいました。そのため文化の継承を目的にどなたでも参加可能な登山囃子講習会を昨年12月から行っています。

参加者たちは笛や太鼓、手振鐘を手に登山囃子を練習。講師の一戸平二さんは個人に合わせて丁寧に指導していました。同会の直近の目標は8月に行われる岩木山神社のお山参詣で、同会が3年に1度の行う大しめ縄奉納での演奏。

参加者たちは「演奏者の高齢化によって文化がなくなってしまうのが心配。若い人に継承していきたい」と話していました。

△8月の大しめ縄奉納に向けて、囃子を練習する参加者たち

訪れた人の目を楽しませるために

富士見湖パークを訪れる人に花景色を楽しんでもらおうと、ボランティアなどが5月20日(金)、パーク内の花壇にベゴニアを植え付けました。

例年は、園児や児童が参加していましたが、おととし昨年同様新型コロナウイルスの感染リスクを考え、参加が見送られました。

ベゴニアは五所川原農林高校と町社会福祉協議会の就労継続支援事業所「鶴花塾」が育てたもので、参加者たちは花壇に掘った穴の中に赤や白、ピンクのベゴニア約1万株を1つずつ丁寧に植えていました。植えられたベゴニアは10月下旬まで楽しむことができるそうです。

その他にも、富士見湖周辺の堤防付近の花壇にもベゴニアが植えられました。

△ベゴニアを1つ1つ丁寧に植えた参加者たち

△田植え定規で苗を植える場所に印をつける児童

昔ながらの田植えに挑戦！

5月24日（火）、鶴田小学校の3年生約80人が昔ながらの田植えを体験しました。

身近な農業について肌で感じてもらおうと町農業委員会（下山勝源会長）が田植え体験を初めて主催。元農業委員の佐藤正悟さんの田んぼを借りて、町農業委員や農協などから参加した約30人が指導に当たりました。

児童たちは、回転式の田植え定規で苗を植える場所に印を付けたり、素足で田んぼの中に入り泥の感触を楽しみながら手作業でもち米「あかりもち」の苗を植えていました。秋には収穫体験や収穫したもち米を使った餅つきを行う予定。

下山会長は「今回をきっかけに農業に興味を持ってくれたらうれしい。今後、稲がどのように成長していくのかも見てほしい。」と話していました。

地域おこし協力隊通信

Vol.47（筆：山田園実）

鶴田町に来て４年。夫と２人で協力隊になり、私は途中で出産・育児のため任期を一時中断し、いよいよ今月末で地域おこし協力隊の任期が満了になります。町の皆さんには、広報やSNS見てるよ～！と声をかけていただいたりとても嬉しかったです。ありがとうございました。

田んぼや畑の様子から季節を感じ、岩木山に見守られ（鶴田から見る岩木山が１番格好良くて好きです！）、美味しい空気と旬の味覚を味わえて、鶴田町に移住して本当に良かったなーと思っています。これからも一町民として農家として頑張っていきますので引き続きよろしくお願いします！

△ぶどう畑と山田ファミリー

山田さんのSNS

Twitter　facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。